

やまゆり

学校だより

令和6年3月11日
96号
学校長 杉本賢二

校訓 「和の心」
学校教育目標 「社会に貢献しながら自立する生徒の育成」 一気づき・考え・実行するー
校内研究重点 「個別最適な学びと協働的な学びで、主体的に学習する生徒を育成する」

学校教育目標 「豊かな心の育成」

別れの悲しさは、出会えた証 第77回卒業式 ②

いかなる時もベストを尽くせ！

森が火事になり、森の生き物たちは我先にと逃げました。

しかし、一羽のハチドリだけは、くちばしで水のしずくを一滴ずつ運んでは火の上に落としていきます。

他の動物たちがそれを見て「そんなことをして一体何になるんだ」と言って笑います。

すると、そのハチドリはこう答えました。

「私は、今私に出来る事をしているだけ」。

これからの高校生活や長い人生には、大変な事もあります。

しかし、結果や人の目を気にしてくよくよしているのではなく、神様に与えられた「自分の命」を今こそしっかり見つめ直し、「今できる事に全力を尽くす」ことが大切です。

これが、私の最後のことばです。

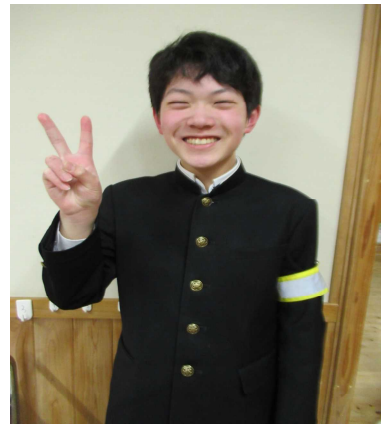
人間は将来、必ず死ぬ事が分かっているのになぜ生きるのか。これは究極の問いです。

人生はあなたに絶望しない。だからこそ、逆境の中でベストを尽くす事＝「生きる事」なのです。

「将来、誰かが、あなたを待っている」。

だから、私達は生きるのです。

3年生。卒業おめでとう！そして、ありがとう！ 保護者の皆様、ありがとうございました。



「15歳の提言」の山本千里さんの意見が、村の施策に活用される事になりました。
右下赤字部分は、保育所、小学校教育と連携し、中学校教育の内容をアピールする内容です

道志村の魅力

自然と教育

○教育的効果

- ・感受性や課題解決能力
- ・探究心やコミュニケーションがアップ
- ・身体能力向上

○リフレッシュ効果

- ・川の上で横になり川を感じられる。
- ・心も体もリフレッシュ

○リラックス効果

- ・頭痛や不安の症状を和らげる

○少人数教育

- ・手厚い指導や表現活動
- ・少年の主張、英語の暗唱大会
など数多く受賞
- ・いじめ不登校0
- ・ICTの活用

○村の伝統教育

- ・道の駅で伝統の太鼓演奏

○子育てバック

- ・学校費や給食費も小中無料

※詳細は、道志村HPをチェック



自然豊かな道志村で
一緒に暮らしてみませんか？

3月10日 79年前の「東京大空襲」を忘れない

－ 死者10万人 被災者100万人の惨劇 －

1945年3月9日～10日、東京の下町墨田(すみだ)江東(こうとう)は、春一番の強風が吹いていました。その真夜中、アメリカのB29爆撃機334機が低空による焼夷弾(しょういだん)無差別じゆうたん爆撃を2時間行いました。この**東京大空襲**で、死者10万人、被災者100万人が出ました。沖縄戦を前に、東京大空襲のような爆撃を「戦略爆撃せんりやくばくげき」と言います。攻撃の対象は、都市に住む非戦闘員の一般住民で、被害者の大半は老人や女、子どもたちです。直接戦闘の行われている「戦場」に対して戦火が及ばない日本国内を「銃後じゅうご」と呼びました。しかし、本土空襲が始まるともやは国内も「戦場」となりました。

3月11日 13年前の「東日本大震災」を忘れない

圧倒的な出来事(死者約2万人)に我が目を疑い、耳を疑いました。その日は13年前、山梨県の公立高校の内定発表日でした。道志中の生徒も大きな揺れと、驚くべき映像に女子生徒を中心に泣いていました。その記憶もだんだん薄れ、テレビや新聞のトップ記事から、いつしか震災の報道は静かに姿を消していつています。

あの日、大津波が町を襲った宮城県南三陸町志津川で、町民に「高台に非難して下さい」と叫び続けた一人の町役場女性職員がいました。

遠藤未希さん(当時24歳)は大津波警報発令後、約30分間、防災無線で町民の避難を呼びかけた、と新聞やテレビで大々的に報じられました。そして、一ヶ月を過ぎた頃遺体で発見されたことも。この時の遠藤さんを「天使の声」と呼ぶ人もいます。

岩手県大船渡市で起こった、重度の障害をもつ孫娘をめぐる老夫婦の災難を一年後のテレビ番組で知りました。なっちゃん(孫娘の愛称)はダウン症で全盲です。大津波が来ると悟った祖父母は車で非難しようと、移動するのに時間のかかるなっちゃんを何とか励ましやっとなりに乗せました。しかし、このままでは間に合わないと判断した祖母は、「おらはいいいから、早く車走らせろ！頑張って生きろ！」と大声で車の発信を促し、発車した後から「バンザイ！バンザイ！」と叫びながら津波に飲まれていったというのです。

